

地球とカラダにやさしい寝具のグリーン購入 エコロジーな寝具の選び方



第9回グリーン購入大賞の大賞受賞

地球温暖化やオゾン層の問題をはじめとして、地球の環境をどのように保護していくかという声は近年とみに高まっています。一方、東京都の粗大ゴミのナンバーワンがふとんだそうですが、さわだでは9年前から寝具のグリーン購入の推進を取り組んできました。そこでRun君と眠り博士Sawada氏によるエコロジーとふとんのお話。

グリーン購入については <http://www.gpn.jp/> より

Run 「Sawadaさん、こんにちは〜。」

Sawada 「こんにちは、今日はどうしたの？」

Run 「今度引っ越すんですよ、それで、ふとんも新しくしようと思って」

Sawada 「Run君、今までどんなふとんを使っていたの？」

Run 「一人暮らしをはじめるときに、母が『だめになったらまた買いなおせばいいよね』とかいって、なんか適当なものを買ってくれたんですよ。どうも羊毛ふとんみたいなんだけど、すぐにへたっちゃった。まだ3年ぐらいしか使っていないのに…。Sawadaさん、羊毛ふとんって打直しかできないの？ここに持ってきたんだけど」

Sawada 「どれどれ、う〜ん、3年で使い捨てはもったいんだけどなあ、でも…。」

Run 「でも？」

Sawada 「今、巷にはこういうふとんが沢山出回っているんだけどね、残念ながら、打直しはできないんだ。もめんの綿なら打直しできるよ。」

Run 「最近のリサイクルとかよく言うじゃない、ふとんはだめなの？」

Sawada 「現在のところ、リフォームが可能なのはもめん綿と羽毛ふとんだけなんだね。リサイクルはまだ技術が確立されていないんだ。」

Run 「じゃあ、新しいの買うから、これ引き取って」

Sawada 「う〜ん、しょうがないね。でもね、本当は処分料がいるの。だから、今度買うのはちゃんと環境のことを考えてみてよ」

Run 「どうすればいいの？」

Sawada 「環境のことを考えて品物を買うことを『グリーン購入』というんだ。例えば、コピーの紙に再生紙を使ったり、省エネの電気器具を使ったり、CO2が少ないものとか、フロンを使っていないとかね。この考え方の基本には

「4R」というものがあるんだ」

Run 「4R？ 何のこと？」

Sawada 「Refuseは拒否という意味、すなわち、買わない、作らない、捨てないということ。それから Reduceは減量、できるだけ少量、最小限にするということ。次のRは Reuse再利用ということ、そして最後が Recycleで再資源化ということなんだ。」

Run 「なんだ、ReuseとRecycleは違うんだ。」

Sawada 「そう、打直してまたふとんとして使うのが再利用。再資源化は原料のレベルの話といえるね。ただ、環境問題というと、すぐにReuseとかRecycleの話になるんだけど、本当に大切なのは、何度も買い換ええないこと、要するに長く使うということなんだね」

Run 「じゃあ、ふとんを買わずにこのぺちゃんこのふとんを使えと…。」

Sawada 「だから、3年ぐらいでだめになるような中途半端なものを買わずに、良いものを長く使って欲しいの。羽毛ふとんなんか、質のいいものの中身は50年ぐらい使えるんだよ」

Run 「ひえ〜50年」

Sawada 「まあ、側はそこまで持たないから、10年ぐらいでリフォームをしていけばいいんだ。でも質のいいやつじゃないとだめだよ」

Run 「でも、あんまり長く使うとSawadaさん、商売上がったりじゃない？」

Sawada 「確かにそうなんだけど、いままでのような大量販売・大量破棄は、どう考えてもこれからの時代には考え直していかなければならないでしょ。そのうちに、どこを見渡してもゴミの山になっちゃうよ」

Run 「理屈はわかるけど、先立つものがねえ…。」

Sawada 「もちろん、予算あっての買い物だからね。でもこれからは、これが粗大ゴミになるか、

Reuse や Recycle ができるかということを考えて欲しいんだよ。」

Run 「でも、どこを見たら判るの？そんな情報ないよ」

Sawada 「そうだね、基本的には天然素材 100%のものを選ぶと良いと思うよ。天然素材なら最後は土に還るからね。でも、天然素材は良し悪しを見分けるのが非常に難しい。牛ミンチの偽装事件があったけど、特にふとんは中に入っているから、ごまかしがしやすいんだね。」

Run 「そうなんだ。だから安心できるお店を探せっていう訳なのか。ところで、最近はおめんなわたの布団より羽毛布団が多いじゃない。羽毛布団は仕立て替えできるの？」

Sawada 「その質問待ってました。(店の奥へ行く…)これが、新しく導入したドイツ・ロルヒ社の羽毛リフレッシュマシン。新しくといってもドイツの工場にあった再利用品だけだね。」

Run 「わっ！すごい機械！これで羽毛布団のリフォームができるんだ」

Sawada 「そう、羽毛布団から羽毛を取り出してきれいに洗い、ゴミ取りをすると新品のように生まれ変わるんだね。リフレッシュされた羽毛を新しい側に吹き込めば、新品同様に生まれ

変わる。羽毛布団は普及率が 100%近くなってしまったから、これからはリフォームすることが大切なんだね。そのためにも、リフォームに耐える良質の素材を選ぶことが大切なんだ。」

Run 「話は変わるけど、ベッドのマットレスも買い換えたいんだけど、グリーン購入できるのかな？」

Sawada 「金属スプリングを使ったマットレスはリサイクルがしにくいからねえ。環境先進地のヨーロッパでは展示会に行ってもスプリングのマットレスは見ないものね。」

Run 「じゃあ、どんなマットレスがいいの？」

Sawada 「ラテックスといって天然ゴムを発泡させたものが一番かな？長持ちするし、紫外線に当たると分解を始めるので捨てるときは楽だし、天然素材のくせに抗菌性は抜群、なによりカラダを正しく体圧分散して支えてくれるので快眠に良いね。グリーン購入の申し子みたいだな。2階にあるから試してごらん」

Run 「うわあ、気持ち良い。グリーン購入と快眠って両立するんだね。」

Sawada 「もちろん。」

羽毛布団を捨てないで！リフォームすれば使えます 西日本初、店頭で羽毛の完全洗いリフォームを実現

ドイツ・ロルヒ社の羽毛リフレッシュマシンを導入しました

10年経ったらリフォームを

羽毛布団の先進地ドイツでは古くなった羽毛布団をリフォームして長く使うことを行っています。さわだでは、店頭設置としては西日本初となるドイツ・ロルヒ社の羽毛リフレッシュマシンを導入。生の原料でも洗浄可能な強力マシンです。目の前で、きれいに完全洗いと除塵・フェザーの分別を行い、羽毛布団をリフォームします。サイズの変更なども自由に出来ます。



羽毛を解体して、原料を機械へ送る

専用洗濯機で1回洗い2回すすぎ

脱水後に高温で乾燥+除塵

分別工程
重いフェザーやゴミを分別

重量を計量して、足し羽毛

新しい側に充填して新品同様

環境にも眠りにも優しい、ロハスなグリーン購入推奨品

究極の天然素材によるマットレス
オーストリア・ムースブルガー社

馬毛マットレス&ウッズプリング

馬毛を丁寧にカールして作られるマットレスは全て家内工業による手作業のロハスな製品。通気性と耐久性に優れた究極の天然素材マットレス。独特の形状である枕は絶品。



自然が生んだ極上のステッキードウン
オーストリア・ヨハネスカウフマン社

ステッキードウン羽毛掛ふとん

寒暖の差が厳しい自然によって生まれ、手選別によって得られる絡みの強いステッキードウンはホコリが少なく、保温性に優れています。ボーデン湖畔の新工場でアルプスの天然水で洗われた素のままの特上のダウンを直輸入。エコテックススタンダード100の側生地を使い、一枚一枚手作りで仕立て上げた、ロハスの極みともいえる羽毛ふとんです。



木ともめんとラテックス 自然素材 100%
スイス・ヒュスラーネスト社

リフォーマ・エレメント&マットレス

全て自然素材から生まれたリフォーマエレメントはスイスやオーストリアなどの睡眠クリニックでも使われ、20万台以上の実績を誇ります。



地元近江の手引き真綿を使用

テキサス・オーガニックコットン使用

オーガニックガーゼ真綿ふとん

ソフトで保温性の良いオーガニックコットンのダブルガーゼを使って、近江真綿で仕上げたオリジナルの真綿ふとんです。アレルギーにもおすすめ。



良質の羊毛の良さを素のまま味わう
ドイツ・ビラベック社

羊毛敷ふとん オリジナルリネン麻生地バージョン

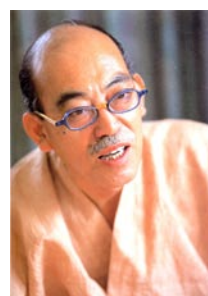
良質のフランス、ダウン種の羊毛をじっくりエージングして仕上げられた、世界で最初の羊毛ふとん・ビラベック。国産のリネン麻生地を使いオールシーズン心地良く長く使えます。



一枚一枚手作業での染めが独特の風合いを生み出す

宮崎登志雄の手染め本麻夏ふとん

良質の国産本麻生地を異才・宮崎登志雄が無添加の草木染めをしました。それを国産の本麻わたを入れて仕立てました。麻は吸湿が良く、熱伝導性に優れ、熱がこもりにくいので、夏にぴったりのふとんです。



寝具のグリーン購入のためのガイド

これは眠りのプロショップ Sawada が独自に定めたものです。

1. 長期使用に耐えられるかどうか？

寝具はリサイクルの技術が十分に確立されていないので、長く使って買い換えを少なくする (Reduce) を第一に考えます。長期間の使用に耐えうる良質の素材を選ぶことが重要ですが、長く使うためには日常のメンテナンスも大切です。

2. 再利用可能かどうか？

再資源化 (Recycle) ではなく、まず素材を再利用 (Reuse) できるかどうかをチェックします。現状では、和とじ仕立てのもめん綿ふとんど、側も中わたも再利用できるので最も評価が高くなります。羽毛ふとんも再利用可能です。ウレタン素材は再資源化が可能です。

3. 分別可能かどうか？

将来の再資源化技術の確立を見越して、その時に素材の分別が容易かどうかをチェックします。多く出回っている木綿わたとポリエステル、羊毛とポリエステルなどの混綿は分別が非常に難しくなり、同一素材 100%の方が分別が容易になります。

4. 生分解するかどうか？

破棄する場合でも、天然素材 100%であるなら最終的には土に還ります。

5. 環境に負荷の少ない素材を使っているかどうか？

オーガニックコットン (無農薬有機栽培綿) や、製造過程でゴミを出さないリヨセル、グリーン証書電力を使った工場で製造されたタオル、エコテックス 100 規格に適合した素材などがあります。

良質な天然素材を長く使う

これらのグリーン購入ガイドから、眠りのプロショップ Sawada がおすすめするのは、良質の天然素材を長く使う、ということです。天然素材なら生分解可能ですし、良質の素材は良い環境で生まれたものです。また、快眠の条件である温度 33℃湿度 50%を快適に保つには自然素材が適していますし、良い素材はアレルギーの心配も少ないのです。ポリエステルやアクリルなどの合成繊維は最小限にして、お使いいただくことをおすすめします。

エコ談義番外編 「打直してエコ？」

Run 「ねえ、打直してエコだよ」

Sawada 「もちろん、そうだよ」

Run 「でも Sawada さん、あまり PR していないよね。グリーン購入を訴えるなら、もっと打直しを PR するべきじゃないの？」

Sawada 「していないつもりはないんだけどなあ。もともと私は製綿屋で、打直しを生業としてきたからね。ただ、現状では手放しでエコロジーだといえない部分があるんだ。」

Run 「それはなに？」

Sawada 「日大医学部の内山教授によると睡眠障害による損失、事故や能率低下などが一年間に 3 兆 5 千億円にのぼるそうだ。6 兆円と云う人もいる。それぐらい、快眠できないことによる社会損失が大きいんだね」

Run 「それと、打直しがどう関係するの？」

Sawada 「打直しは環境のためには良いけれども、打直しした布団はどうしても性能が落ちてしまう。

綿の汚れが取れないからね。快眠という視点、特に敷ふとんで正しい寝姿勢の保持と体圧分散を行おうとすると、打直しの布団では限界があるのも事実なんだ。布団を打直して座布団を作るのなら大賛成だけどね。」

Run 「ふむふむ」

Sawada 「睡眠の質を向上させることによって、事故が少なくなったり能率が上がったりすればエネルギー効率は上がって、環境への負荷が少なくなるよね。快眠を実現する環境を得ることは生活の質 (Quality of Life) を向上させることだし、ある意味でそれはグリーン購入だといえるだろうね。ただ、そのための敷ふとんやマットレスの重要性に多くの人がまだ気付いていない。打直しをするときは、良い機会だから、そのことも考えて欲しいんだね。だから単純に『はい、打直し』といえない訳さ。」

Run 「なるほど、これは奥が深いや」